

韓国・台湾の発展メカニズム

服部民夫・佐藤幸人編

韓国・台湾の発展メカニズム

服部民夫・佐藤幸人編

アジア経済研究所

研究双書No.464

服部民夫・佐藤幸人編『韓国・台湾の発展メカニズム』

Kankoku Taiwan no Hatten Mekanizumu

(Development Mechanisms in Korea and Taiwan)

Edited by

Tamio HATTORI and Yukihito SATŌ

Contents

- Introduction : Problems and Hypotheses on Comparative Study between Korea and Taiwan
(HATTORI and SATŌ)
- Part I Economic Developments and Their Mechanisms in Korea and Taiwan
- Chapter 1 Rethinking of Development Strategy and Its Mechanism in Korea (Nobuyuki KASAI)
- Chapter 2 Heavy and Chemical Industrialization Policy in Korea (Nao ISHIZAKI)
- Chapter 3 Government and Firms in Taiwanese Economic Development (Yukihito SATŌ)
- Part II Comparative Analyses on Economic Development in Korea and Taiwan
- Chapter 4 A Comparative Study on Manufacturing TFP Growth in Taiwan and Korea (Satoru OKUDA)
- Chapter 5 Distribution of Size of Firms in Korea and Taiwan
(Makoto ABE and Momoko KAWAKAMI)
- Chapter 6 Comparative Analyses on Industrial Development in Korea and Taiwan
(ABE, KAWAKAMI, and SATŌ)
- Part III Comparative Analyses on Political and Social Factors in Korea and Taiwan
- Chapter 7 Political Regime and Democratization (Masahiro WAKABAYASHI)
- Chapter 8 The Vietnam War and Its Economic Implications for South Korea and Taiwan
(Tadashi KIMIYA)
- Chapter 9 Cultural Aspects of Korean and Taiwanese Economy (Kaku SECHIYAMA)
- Chapter 10 The "Laoban"-led Corporate Development in Taiwan (Ichirō NUMAZAKI)
- Chapter 11 The "Chaebol"-led Corporate Development in Korea (Tamio HATTORI)
- Conclusions : Development Mechanisms in Korea and Taiwan (HATTORI and SATŌ)

[Kenkyū Sōsho (IDE Research Series) No. 464]

Published by the Institute of Developing Economies, 1996

42 Ichigaya-Hommura-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 162, Japan

韓国・台湾の発展メカニズム

第 I 部

韓国と台湾の経済発展とそのメカニズム

第II部

経済発展の比較分析

第Ⅲ部

政治・社会的要因の比較分析

はつとりたみ お
服部民夫 (東京経済大学経営学部教授)

さとうゆきひと
佐藤幸人 (アジア経済研究所地域研究部)

かさいのぶゆき
笠井信幸 (八千代国際大学政治経済学部教授)

いしぎきな お
石崎菜生 (アジア経済研究所海外派遣員)

おくだ さとる
奥田 聡 (アジア経済研究所統計調査部)

あべ まこと
安倍 誠 (アジア経済研究所海外派遣員)

かわかみもも こ
川上桃子 (アジア経済研究所海外派遣員)

わかばやし まさひろ
若林正丈 (東京大学教養学部教授)

きみやただし
木宮正史 (法政大学法学部助教授)

せち やまかく
瀬地山角 (東京大学教養学部助教授)

ぬまざき いちろう
沼崎一郎 (東北大学文学部助教授)

—執筆順—

韓国・台湾の発展メカニズム

研究双書464

1996年3月25日発行©

1998年4月15日第二刷発行

編者 服部民夫・佐藤幸人

発行所 アジア経済研究所
東京都新宿区市谷本村町42 電話 東京(3353)4231(代)

発売所 アジア経済出版会
東京都新宿区市谷本村町42 電話 東京(3353)1640
FAX 東京(3357)0435
振替 00150-7-143692

印刷所 勝美印刷株式会社

ISBN4-258-04464-4



定価(本体4952円+税)

ISBN4-258-04464-4 C3033 ¥4952E

目 次

まえがき

序章 韓国・台湾比較研究の課題と仮説……………服部民夫・佐藤幸人…	3
第1節 なぜ、比較研究か——問題意識の所在 ……………	3
1. 経済発展のモデルとしての韓国と台湾 ……………	3
2. これまでに得られたコンセンサス ……………	4
3. 「発展メカニズム」をめぐる論争 ——「市場主導仮説」と「政府主導仮説」……………	11
4. 論争に対するコメント ……………	15
5. 韓国と台湾の比較研究 ……………	16
6. 本研究の問題意識 ……………	18
第2節 何が明らかになったか ……………	19
1. 韓国と台湾の経済発展とそのメカニズム（第I部） ……………	19
2. 経済発展の比較分析（第II部） ……………	21
3. 政治・社会的要因の比較分析（第III部） ……………	24
第3節 概念と方法について——序章のむすびとして ……………	28
1. 「発展メカニズム」再論 ……………	29
2. 地域研究的なアプローチ——その長短 ……………	30

第I部 韓国と台湾の経済発展とそのメカニズム

第1章 韓国の開発戦略と発展メカニズム再考 ……………笠井信幸…	35
----------------------------------	----

第1節	意図と課題	35
第2節	「遺産」と援助依存の構図	37
第3節	「輸入指向工業化」と資本蓄積メカニズム	45
第4節	朴政権の特質	50
第5節	持続的成長と経済開発戦略	55
第6節	要約と結論——連続性と非連続性	61
第2章	韓国の重化学工業化政策	
	——開始の内外条件と実施主体——	石崎菜生… 65
	はじめに	65
第1節	急速な重化学工業化政策の開始	66
	1. 第3次経済開発5カ年計画の位置づけ	66
	2. 重化学工業化宣言	68
	3. 安定・均衡路線からの離脱と急速な重化学工業化政策の開始	68
第2節	重化学工業化政策開始の内外条件	71
	1. 北朝鮮の武力挑発	72
	2. アメリカの対アジア政策	72
	3. 南北対話の開始	73
	4. 防衛産業の育成	74
	5. 維新体制の発足と重化学工業化政策	76
第3節	重化学工業化政策の作成・実施主体	77
	1. 重化学工業推進委員会および同企画団の設置	78
	2. 重化学工業推進委員会企画団と経済企画院	81
	3. 物動計画への志向	83
	むすび	84
第3章	台湾の経済発展における政府と民間企業	
	——産業の選択と成果——	佐藤幸人… 87

はじめに	87
第1節 政府の選択とその成果	89
1. 政策の変遷	89
2. 輸出指向工業化政策の意義	91
3. 保護政策	92
4. 税制上の優遇措置	93
5. 公営企業による重化学工業化	96
第2節 民間企業の発展メカニズム	101
1. 輸出産業の起動	102
2. 分業ネットワークの形成・参入・成長と多様化	103
むすびにかえて	
—台湾と韓国発展メカニズムの分岐に関する3つの仮説	114

第II部 経済発展の比較分析

第4章 韓国と台湾の製造業生産性の比較

——工業化政策と関連して——.....奥田聡...121

はじめに	121
第1節 韓国・台湾の工業化政策の変遷	122
1. 韓国の工業化	123
2. 台湾の工業化	125
第2節 韓国・台湾製造業のTFP成長率	128
1. TFP推計の手順	128
2. 韓台製造業のTFP推計結果	130
3. 韓台製造業TFPの記述統計的観察	132
第3節 TFPの変化と工業化政策	133
1. 過去の関連研究	133

2. 本章での分析モデル	134
3. パネルデータの利用と産業属性の動的・静的な生産性効果	135
4. 産業属性の動的変化の効果	136
5. 静的産業属性の生産性効果	138
第4節 まとめと結論	139
第5章 韓国・台湾における企業規模構造の変容	
—「韓国は大企業、台湾は中小企業中心の経済」か—	
……………安倍誠・川上桃子	147
はじめに	147
第1節 センサス・データの分析	148
1. データの性格	148
2. 規模構造の変容	
—「韓国は大企業、台湾は中小企業中心の経済」か	152
3. 小括	157
第2節 ビジネス・グループの規模比較	158
1. データの性格	158
2. 上位50グループの比較	159
第3節 輸出主体と企業規模	162
1. データの性格	162
2. 比較	164
むすび	165
第6章 産業の比較分析	169
第1節 合成繊維産業—寡占的産業組織・低輸出比率の韓国と	
激しい市場競争・高輸出比率の台湾—	…安倍誠・川上桃子
……………	169
1. 韓国	170
2. 台湾	177

3. むすび	185
第2節 工作機械産業——内需指向・高内製化率の韓国と輸出指向・ 外注依存の台湾——	佐藤幸人…186
1. 2つの相違点	186
2. 台湾と韓国の発展過程と政府の介入	186
3. 比較分析	193
第3節 電子産業——韓国の総合電子メーカーと台湾のベンチャー・ ビジネス——	佐藤幸人…197
1. 二重構造の形成と限界	198
2. 発展経路の分岐	204
3. ICの韓国とパソコンの台湾	208
4. まとめ	211
 第Ⅲ部 政治・社会的要因の比較分析 	
第7章 台湾・韓国の政治体制と民主化 ——相違点对比の試み——	若林正丈…219
はじめに	219
第1節 工業化推進専制体制の特質	221
1. 専制体制成立のタイミングと組織的性格	221
2. 政治エリート・学生・労働者	223
第2節 民主化過程	226
1. 政治的亀裂と民主化の政治的内容	226
2. 民主化過程の様態	233
むすび	235
第8章 ベトナム戦争とベトナム特需	木宮正史…243

第1節 課題と問題設定	243
第2節 南ベトナム派兵	244
第3節 ベトナム特需	248
1. 韓国のベトナム特需	248
2. 台湾のベトナム特需	256
結 論	260
第9章 韓国・台湾経済の文化被拘束性	瀬地山角 269
第1節 「イエ社会論」の韓国・台湾版	269
第2節 家族形態・社会規範	270
1. 韓国の場合	271
2. 台湾の場合	275
第3節 組織・企業	278
1. 日本との対比	278
2. 台湾の場合	279
3. 韓国の場合	281
第4節 女子労働	282
第5節 教育志向と頭脳労働志向	286
1. 学歴	286
2. 肉体労働 (manual labor)	289
第6節 経済構造の文化被拘束性——儒教の浸透度	291
第10章 台湾における「老板」的企業発展	沼崎一郎 295
はじめに	295
第1節 老板という企業家	297
1. 老板とは何か	297
2. 老板の特徴	299
3. 企業家としての老板	303

第2節 老板を生む社会	305
1. 漢民族の家族	306
2. 漢民族の社会	308
3. 日本との関係	311
4. 開かれたネットワーク	313
おわりに	313
第11章 韓国における「財閥」的企業発展.....服部民夫...	319
問題の設定	319
第1節 「財閥」化の客観的条件	320
第2節 子会社を通しての多角化	332
第3節 政府と企業の人的つながり	339
むすびにかえて	343
終章 韓国・台湾の発展メカニズム	服部民夫・佐藤幸人...347
第1節 産業政策と企業成長	347
1. 初発条件と国民経済建設——韓国	348
2. 初発条件と国民経済建設——台湾	350
3. 企業の成長とリスク負担	351
第2節 政治・社会と「担い手」問題	353
1. 冷戦体制と韓台	353
2. 「担い手」とその社会	355
第3節 韓台比較のインプリケーション	356
参考文献	361
索引	381

図 表 目 次

序章 韓国・台湾比較研究の課題と仮説

図序-1 韓国・台湾の1人当りGNP	4
2 製造業がGDPに占める比率	6
3 製造業が就業人口に占める比率	6
4 輸出依存度	7
5 輸入依存度	7
6 対米輸出の比率	8
7 対日輸入の比率	8
8 貿易収支	9
9 貯蓄と投資	10
10 消費者物価指数の上昇率	10
11 発展メカニズムの論理構造	30

第1章 韓国の開発戦略と発展メカニズム再考

表1-1 工業部門の南北朝鮮比率(1940年)	38
2 解放前朝鮮の対日商品別輸出入構成	38
3 朝鮮工業製品の自給率(1941年)	39
4 主要機械器具工業の国内自給率(1940年)	39
5 機関別援助受入れ状況(1945~61年)	42
6 主要外国資金の導入実績(1962~93年)	54
7 主要輸出産業における大手企業の輸出比率の推移	59

第2章 韓国の重化学工業化政策

表2-1 第3次経済開発5カ年計画と「わが国経済の長期展望」の相違点	69
2 「重化学工業育成計画」と「わが国経済の長期展望」の比較	82

第3章 台湾の経済発展における政府と民間企業

表3-1	投資奨励条例と産業の成長	95
2	製造業付加価値生産額の部門別の構成と寄与度	98
図3-1	台湾の製造業付加価値生産額に占める公営企業の比重	97
2	分業ネットワークのモデル図（水平的取引）	105
3	アパレル産業における垂直的取引の例	105
4	分業ネットワーク，参入・成長と多様化	112

第4章 韓国と台湾の製造業生産性の比較

表4-1	韓国・台湾の産業別TFP成長率と対GDP成長寄与率	129
2	韓国・台湾主要産業の国際競争力（RCA指数，1990年）	131
3	総要素生産性成長の要因分析	137
付表	製造業業種分類一覧表	145

第5章 韓国・台湾における企業規模構造の変容

表5-1	企業規模構造の変遷	150
2	規模構造変化の要因分析	154
3	韓国「財閥」付加価値生産の対GDP比率	159
4	台湾のビジネス・グループの経済的地位の変遷	160
5	上位ビジネス・グループの売上高合計の対名目GDP比率	161
6	企業規模と輸出性向	163
7	全輸出に占める中小企業の比率	164

第6章 産業の比較分析

表6-1	合成繊維産業への企業参入（1963～75年）	171
2	韓国合繊産業の生産能力の推移	174
3	合成繊維の内需・輸出比率	175
4	台湾における合成繊維メーカー数および生産能力の推移	178

5	合繊産業への企業参入（1975～76年）	179
6	台湾の合成繊維の輸出比率	182
7	1980年前後の合繊製品輸出先構成の推移	184
8	韓国・台湾の工作機械産業の生産と輸出	187
9	韓国の工作機械産業の部品調達（1987年5月）	192
10	韓国・台湾の工作機械のNC比率（1990年）	196
11	韓国・台湾の電子産業の生産額	199
12	カラーテレビの輸出比率と国産比率（台湾）	200
13	台湾のカラーテレビとVTRの企業別売上高シェア	202
14	韓国電子企業のタイプ別輸出比率（1978年および79年）	203
15	韓国の主要電子製品の国産比率	203
16	韓国と台湾の主要な電機電子企業	207
図6-1	3大合繊の生産量	170
2	韓国・台湾の合成繊維長繊維糸・織物の輸出額	176
3	台湾の施盤の海外市場の変化	189
4	台湾における市場と技術蓄積・生産体制の相互作用	195

第7章 台湾・韓国の政治体制と民主化

表7-1	台湾戦後政治・経済史略年表	239
2	韓国戦後政治史略年表	241

第8章 ベトナム戦争とベトナム特需

表8-1	ベトナム参戦国の派兵規模（1964～72年）	245
2	対ベトナム経済活動収益	249
3	韓国の対米・日輸出の推移	250
4	韓国の対南ベトナム金属製品輸出の推移	254
5	台湾の対南ベトナム輸出額の推移	257
6	アメリカ経済援助資金による輸入	257

7	南ベトナム政府保有外貨による輸入	258
8	台湾の対米輸出入	258
9	韓国・台湾の国際収支比較	262
図8-1	南ベトナム派兵規模と対ベトナム経済活動収益の推移	251
2	南ベトナム派兵期間における対米輸出の増加	252
3	輸出増加率の推移	253
4	アメリカの輸入に占める韓台両国の比率	260
第9章 韓国・台湾経済の文化被拘束性		
表9-1	韓国・台湾の女子労働力率の推移	283
2	韓国女性の学歴別労働力率	284
3	台湾女性の教育程度別労働力率（1992年）	284
4	学歴別の就労者に占める女性の割合	284
5	韓国・台湾の中学・高校進学率の暦年変化	286
6	韓国・台湾・日本の大学進学率	287
7	韓国・台湾の学歴別失業率	288
8	韓国・台湾の学歴別賃金	288
9	韓国・台湾の職業別賃金・労働時間格差	290
図9-1	トッドによるヨーロッパ家族の分類	271
2	韓国・台湾の女子労働力率	285
第11章 韓国における「財閥」的企業発展		
表11-1	主要商業借款推進事業（1973～78年）	322
2	主要商業借款推進事業（1979～85年）	323
3	韓国「財閥」の多角化	326
4	財閥の付加価値生産の対GNP比	332
5	ラッキー金星グループの所有と経営（1982年）	336
図11-1	大字グループの拡大過程	334